

開講日	2026年秋期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部研究棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野 教授 杉浦健之		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】痛み診療は日々進歩しており、本講義はその知識をアップデート・整理するのに最適な講演内容となっています。本年度の学びなおし講座は、神経疾患、整形外科疾患、精神疾患、周術期に特有な痛み、心理社会要因への対応など、“痛み“に関わる広い領域のレクチャーを企画いたしました。また、痛みの予防という観点からも、看護学部、公衆衛生、東洋医学の専門家からご講演をいただけます。講義の後、すぐに実践できるリハビリテーションや精神心理介入の基礎理解も期待してください。医師、薬剤師、心理士、理学療法士と、多診療科・多職種からの講師陣を揃え、幅広い領域の中での”痛み“の最新情報や、”痛み“診療現場における生の声をお届けいたします。リピーターの参加者にも楽しんで勉強していただけるよう、今回も新たなテーマや講師陣を迎え、皆様のご参加をお待ちしております。 【期待される成果】どの専門領域でも、痛みに関わらない医療分野はありません。医師や看護師の他、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種の方々に、痛み診療に関わるハイレベルな知識と技術を身につけていただき、患者さんのために“多職種チーム医療”に貢献できる人材育成を目指しています。痛みにお困りの方に寄り添い、適切な治療やアドバイスが出来る仲間をますます増やしていきたいと考えております。		
目標とする 資格	いたみマネージャー・いたみコーディネイター(日本痛み財団)など		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	痛み診療における検査とその解釈	痛みの診療では、正確な病態把握のために詳細な問診や検査が必要です。痛みセンター外来で行っている感覚検査から、神経障害性疼痛・痛覚変調性疼痛のスクリーニング検査、自己記入式アンケート検査など評価方法と解釈について解説します。	9月3日	教授 杉浦健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立病院 いたみセンター口
L-2	2	神経疾患と痛み 一病態の理解から治療まで一	高齢化とともに認知症やパーキンソン病等の神経変性疾患も増加しており、それらの特性や病態に応じた痛みの対応が望ましい。痛みを伴いやすい各種神経疾患の原因や病態、最新の治療などを紹介し、理解を深めていただきます。	9月10日	部長・准教授 大喜多賢治 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター脳神経内科
L-7	3	慢性疼痛とうつ状態	慢性疼痛の併存精神症状としてうつ状態はよくみられます。うつ状態の治療として薬物療法および精神療法がよく行われますが、今回はそれら以外の治療法として、脳に電気ショックを行うことで併存しているうつ状態の改善をめざす治療をご紹介します。	9月17日	講師 東 英樹 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野
L-4	4	慢性疼痛と身体症状症	様々な苦痛を伴う身体症状が長期に持続し、症状に対する不安や極端な思考が持続する場合には身体症状症と診断される。慢性疼痛の方が精神科で身体症状症と診断されることは多い。本講義では、身体症状症の診断と鑑別、病態理解、求められる対応と治療についてお話します。	9月24日	助教 井上朋子 名古屋市立大学医学研究科 共同研究教育センター いたみセンター
L-5	5	腰痛を起こす整形外科疾患	痛みの感じる部位としての腰痛は非常に多いですが、腰痛の原因がなかなか特定できない場合や、完全に治癒することが困難な状態もあります。腰痛を引き起こす各疾患に対して、整形外科医の立場からお話をさせていただきます。	10月1日	講師 加藤賢治 名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科科学
L-6	6	変形性膝関節症治療の今	40歳以上の日本人の中で、2500万人が罹患していると言われている変形性膝関節症。本疾患に伴う膝痛について、保存療法から手術加療、近年登場し注目されている治療に関して紹介いたします。	10月8日	助教 阿部健作 名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科科学
L-3	7	ポリファーマシーと鎮痛薬	痛みが続くと薬の種類や量は増えていきます。薬による副作用が出ると、対症療法でさらに薬が増えます。自宅にたくさんの残薬があって困っている患者さんもいます。薬剤師の視点で、ポリファーマシーや薬の管理が難しい患者へのアプローチについてお話しします。	10月15日	榊原諒子 名古屋市立大学病院 薬剤部・いたみセンター 薬剤師
L-8	8	痛みを未然に防ぐ:手術前からはじめる早期回復	手術が慢性痛の原因のひとつです。本講義では(なるべく)エビデンスに基づいた術後早期回復のための準備について説明します。	10月22日	教授 加古英介 名古屋市立大学大学院看護学研究科 先端医療
L-9	9	小児慢性痛に対する多職種診療	「慢性的な頭痛のために、学校に行けない。痛み止めが効かない」というこどもがいたら、どのように対応しますか？本講義では小児慢性痛に対する多職種診療、すなわち集学的治療について概説します。	10月29日	講師 徐 民恵 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野・名古屋市立病院 いたみセンター口
L-10	10	姿勢と筋膜性疼痛	筋性のいたみは身近でありながら、鎮痛剤が効きづらいなど、患者自身が対処に苦慮することが多いです。日常的な習慣としての姿勢が痛みの引き金ともなり、防衛的・回避的な行動が逆に症状を強めてしまうこともあります。リハビリテーションの視点でのアプローチを概説します	11月5日	教授 池田 崇 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 理学療法学コース 運動科学分野
L-11	11	慢性疼痛の多面的理解とリハビリテーション	痛みは、感覚だけでなく認知、情動、身体活動、生活環境などの影響を受ける多面的な体験である。本講義では、痛みの評価と急性・慢性疼痛の特徴を理解し、運動療法、患者教育、認知行動的アプローチを通じて、患者の主體的な活動とADL・QOLの向上を支援する方法を学ぶ。	11月12日	講師 堀場充哉 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 /名古屋市立大学病院 診療技術部部長 理学療法士
L-12	12	仕事を原因とする痛み・疲労性健康障害	仕事が原因で生じる急性あるいは慢性の痛みや疲労は、職場での働き方と密接な関係があり、働く個人はもちろん社会的にも重要な課題です。このような健康障害の具体例や、職場における予防のための仕組みや取り組みの考え方を紹介します。	11月19日	教授 上島通浩 名古屋市立大学大学院医学研究科 環境労働衛生学分野
L-13	13	慢性痛の認知行動療法	慢性疼痛には身体面だけでなく心理社会面の影響が指摘されています。心理面へのアプローチとして認知行動療法の有効性が報告されています。本講義では認知行動療法について概説し、慢性疼痛治療における認知行動療法の適用方法について解説します。	11月26日	副室長 心理士 伊藤嘉規 名古屋市立大学病院 臨床心理室 緩和ケア部 いたみセンター
L-14	14	帝王切開における痛みの最適な管理とは ~術前・術中・術後を通じたアプローチ~	帝王切開は多くの女性が経験しうる手術ですが、強い術後痛が生じやすいです。また通常は意識下の区域麻酔で実施されるため、術中の疼痛がない管理も必要です。強い疼痛は回復の遅れによる授乳困難・トラウマ体験、さらには産後うつとも関連するとされます。近年推奨される薬剤・麻酔管理とともに、術前からのケアを含めた周術期を通じたシームレスな鎮痛戦略を解説します。	12月3日	助教 牧野佑斗 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野
L-15	15	痛みと苦悩に対する東洋医学的アプローチ	名市大漢方医学センターでは、特に慢性的な痛みや苦悩に対し、心身のバランスを整える東洋医学的視点でアプローチします。治療では身近なエキス製剤だけでなく、個々の病態に合わせて生薬を組み合わせるオーダーメイドの煎じ薬も紹介し、自然の力を活かした本質的な痛みの緩和と養生法を分かりやすく伝えます。	12月10日	教授 野尻俊輔 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育研究センター 漢方医学センター